



第 25 号

平成 29 年 6 月
会長 岡本 諒

自主防災役員会議を開催 さらなる充実を目指して

北野中央自治会の自主防災役員会議は 5 月 13 日（土）北野連合会館にて開催されました。

当自治会の自主防災組織は平成 21 年 8 月に設立、以来、積極的な活動を行っており、その実績が評価され、当自治会は、去る 1 月、北野地区では初めて札幌市防災表彰を受けたところです。

この日は、防災役員 23 名が参加、今年度の取り組みについて話し合われました。

太田防災部長より 28 年度の防災部の活動報告の後、役員交代が報告され、消火・救出・救護班の 2 区のリーダーとして阿部嗣雄副会長（2 区 6 班）の代わりに松橋信夫さん（2 区 7 班）が就任、同班に新たに上地和男さん（2 区 10 班）が加わりました。

また、本部には三役と防災部が、給食・給水班には女性部がいずれも 29 年度の役員が、自動的に就くことになっています。

・各班の役割の確認の中で会長からは、家族調書に関する個人情報の取り扱いについて、防災対策上最低限の個人情報を把握することは必要であり、取り扱いには十分配慮していくとともに会員のご理解を頂きたいこと

・情報連絡・避難誘導班の太田眞リーダーからは、避難指示などの情報の連絡網を実際に使って行う訓練を行いたいこと、高齢化が進む状況下で要支援者、独居高齢者の確認と支援をしてくれる人との組み合わせをさらに充実していきたいこと等の方針が出されました。

また、町内地図を使って、町内の消火栓、危険個所などの確認、防災用具の保管状況について報告がありました。

今後の防災部の行事として、以下の説明がありました。

- ・防災訓練 7 月 9 日（日）14 時より
北野第二公園にて
- ・避難所運営ゲーム（HUG）講習会
9 月 23 日（土）13 時 30 分より
北野連合会館にて

いずれもいざという時に、大変役に立つものです。参加者が限られていることから、多くの方に参加していただくことが望まれます。



第1回役員・班長会議が開催

第1回目の役員・班長会議は5月6日（土）、北野連合会館において開催されました。会長の挨拶では、

1. 特に班長への3つのお願いとして
 - ① 各事業への積極的な参加とスタッフとしての活動協力。
 - ② 高齢世帯が多いことから一人ひとりが福祉推進員になったつもりでの見守活動。
(小さなおせっかい運動)
 - ③ 教育、防犯の効果もあることから、町内での声掛け、あいさつの励行。
2. キツネの出没による注意と、ペットを飼っている方へのマナーについて
などのお話がありました。

また、この度、北野地区町内会連合会の総会において前北野中央自治会会長で相談役の伊藤昭夫氏（2区10班）が、北野地区町内会連合会の会長に就かれたことの紹介がありました。

自己紹介のあと、会則により、会長から相談役及び福祉推進委員会委員長の委嘱があり、別表の方々に委嘱状が手渡されました。

続いて、各部及び班長の業務内容の確認と、今年度の行事内容、役割分担について説明がありました。



委嘱された方 (敬称略)		
役職名	氏名	区・班
相談役	伊藤昭夫	2区10班
	大内邦夫	2区3班
	太田 眞	1区6班
	幡江 洋	2区10班
福祉推進委員会 委員長	太田 眞	1区6班

次に、総務部長からは、

定期総会で、会則の改正・変更及び内規の変更について審議がなされ、承認を得たが、その後、部長会議、三役会議で条文などについての精査と協議を行った結果、条文の基本的な意味合いは変わらないものの一部に文言の修正の必要性が生じたので、報告させていただき検討の上ご承認いただきたいとの提案があり、該当する条文について説明がありました。

審議の結果、一部再検討の必要な条項があるものの大筋で了承されました。

なお、会則・内規集については修正説明文と合わせて、全世帯に配布されることになりました。

保健衛生部長からは

南北野町内会と接して設置されているごみステーションについて、ゴミ出しルールが守られていないこともあり、南北野町内会の役員と対策を協議する予定との報告がありました。

北野通りと北野第一、第二公園の花壇に花の苗

前日の雨もあがった5月28日(日)朝9時から、北野中央自治会では、北野通り街路樹柵、北野第一公園及び第二公園の花壇に、土木センターから頂いた花の苗(マリーゴールド800株、ペチュニア100株、ダイアンサス30株、計930株)を植えました。

参加した会員はおよそ50名、1時間余りでしたが、町内を愛する会員たちは心を込めて取り組んで居ました。

また、これに先立ち、22日(月)には北野通り街路樹柵の土耕しを行いました。この度、市の補助制度を利用して購入した耕うん機(ホンダ製)がその威力を発揮してくれました。省力化ばかりでなく、草取りや、落ち葉のすきこみなどに活用でき、土にとっても良い効果が期待されます。



北野通り街路樹柵



北野第一公園



北野第二公園 いつも手入れをしてくださる大内邦夫さんと伊藤喜代治さん



購入した耕うん機(ホンダ製)
フロントロータリー式、1.5KW

新規入会者及び転出者のお知らせ

- 入会者 2区4班 アルシオーネ北野(平成29年4月から)
 - 2区4班 アユミリオン4・3(平成29年4月から)
 - 以上各アパートが1棟1世帯として加入
 - 2区11班 藤田亮子さん(平成29年4月から)
 - 転出者 1区1班 工藤幸三さん、 2区12班 佐々木睦久さん
- この結果北野中央自治会の総世帯数は322となりました。

認知症の正しい理解

= 専門職の立場から = (パート1)

清田区介護予防センター北野・平岡
清幌園居宅介護支援事業所 管理者
渡邊 和人

さっそくですが、認知症と聞いた時に皆様はどのようなイメージを持つでしょうか？
例えば、「何を言ってもわからない」、「徘徊して大変」、「近寄り難い」等、もしかするとマイナスのイメージをお持ちの方も多いのではないでしょうか？

以前は「痴呆症」と言われていた時代もありましたが、侮蔑的な表現であるという理由から、2004年に厚生労働省の取りまとめにより「認知症」へと呼称変更されました。当時を振り返りますとニュース等でもさかんに呼称変更された事が報道されていた事を記憶しています。言葉が変われば全て変わるわけではありませんが、ニュースや新聞等でも最近は良く認知症が取り上げられている場面を見ると、以前に比べると少しずつではありますが、認知症に対する理解が広まっているのではないかと感じております。

ただ一方で良く耳にするのが、「認知症」という言葉を「あの人は認知があるから・・・」、「認知が進行して・・・」等と「認知症」を「認知」と省略し、意味としても間違っ使用されている事も多いように感じます。特にこの言い回しは、我々専門職同士の会話で聞かれる事がありますが、この「・・・」に隠れた言葉・思いとして、どこかマイナスイメージが残っているようにも感じられ、また軽い言葉として捉えられ誤解を招く可能性もあります。このような、人権への配慮不足や思いの脱却こそが、「痴呆症」から「認知症」への呼称変更の狙いでありましたが、我々専門職ですらまだ脱却できていないのも現状です。

地域の方々へ認知症に対する正しい理解を伝えていく立場としては、まず我々が正しい知識を備え、正しく地域の方々へも伝えていかなければならないと感じております。

これからの高齢化状況を考えると、当然認知症の方も増えていくことになり、「認知症」が特別な存在ではなくなります。ただ、認知症や障がいがある事を近所の人には言いたくないと思っている方もまだ少なくない現状を踏まえると、正しい理解が浸透されていないとも言えます。冒頭でも述べましたが、「徘徊」などがあると介護される家族にとっては大変な事も多いですが、地域の方々の優しい目が本人や家族の安心感にも繋がると思います。

認知症の方や支える家族が孤立しないよう、誰もが安心して過ごせる地域を目指す上では、多くの課題がありますが、我々専門職の立場としても地域の方々と一緒に考え、解決に向けて歩むことが出来ればと思っております。